

# 農業

令和4年8月号  
会誌 No. 1693



## 目次

### 巻頭言

ネパール農業の昨今……………西郷 正道 3

### 論 壇

労働の確保は運動器の健康から……………宮田 恵 4

### 食用タンパク質研究会

第6回食用タンパク質研究会……………渡邊 崇人 6

食品ロスを循環させる新たなタンパク源としての「食用コオロギ」

質疑応答・討論…………… 15

### 農業懇話会

日本農業の担い手としての農業法人のプレゼンスと課題……………納口るり子 21

### 食を楽しむ

「用途別栽培」のすすめ……………青木 信博 36

### 研究の最前線

水田から排出される温室効果ガス……………常田 岳志 37

—メタンを削減するための育種的，栽培的アプローチ—

### 農業・農村の現場から

「部分浅耕—工程播種」によるダイズの産地振興と今後の普及…川村 富輝 44

## 世界の農業は今

- タンザニア・キリマンジャロの農家経済経営と……………辻村 英之 51  
農産物販売・流通の特質  
—利益追求・安全保障の経営目標・行動と社会的連帯経済—

## 私の経営と志

- 次世代が継ぎたくなるような経営……………鈴木 大地 57  
—後継者に投資を—

## 農家の気持ち

- わがままな野菜オクラ，我慢強いトマト……………石塚 虎雄 59  
—農業は土作りが基本—

## 統計情報

- 畜産統計 [2022 (令和4) 年2月1日現在] …………… 60

## 農政情報

- …………… 61

- 編集部から …………… 61

- 大日本農会だより …………… 62

- 会誌「農業」に関するアンケート

### 表紙写真説明

### ハウス柿の選果風景 (奈良県五條市西吉野町)

奈良県のハウス柿は、奈良で生まれた「刀根<sup>とね</sup>早生<sup>わせ</sup>」という種なしの渋柿品種をビニールハウスで栽培しています。JAならけんハウス柿部会では、約12haの園地で、年間約500tを生産しています。これは全国のハウス柿生産の80%以上を占めます。

ハウス柿は栽培施設内を温風暖房機で加温することにより、露地柿より約2カ月早く収穫することができます。また、降雨の影響を受けずに適切な肥培・水分管理が行えることから、平均糖度が16度と高いことが特徴です。

今年も6月30日から選果が始まり、7月上旬から9月中旬まで全国の果物専門店、百貨店などで販売され、一足早い秋の味覚として、消費者から好評を得ています。

部会では、<sup>せんてい</sup>剪定講習会や園地巡回、販売反省会などを行い、生産者一丸となって品質の高い果実の生産に取り組んでいます。

見かけた際は是非手に取ってご賞味ください。

(写真および文：奈良県南部農林振興事務所 福山 穂奈美)